

ジブリパークを歩いて Vol.3

「子どもは五感をフルに使って満喫し、大人は大人ならではの楽しみ方ができる」



落合福嗣 (声優)

1987年、東京都出身。アニメの声優やテレビ番組のナレーターとして活躍中。メイキング・ドキュメンタリー「ジブリパークができるまで。」のナレーションを担当。

スタジオジブリや東海地方ゆかりの方が肌で感じたことを語る「ジブリパークを歩いて」。第3回は、2度目の来園という声優、落合福嗣さんです。子どもたちと巡り、仲むつまじい様子が見られました。

「初めて訪れた「魔女の谷」はいかがでしたか？」

念願の「メリーゴランド」に乗ることができて感動しました。「ジブリパークができるまで。」(制作過程を紹介するドキュメンタリーDVD)のナレーションを担当した際に、「メリーゴランド」の音楽が緻密に計算されていることを知って、どのタイミングで止まるかまで考え抜かれているんですよ。その原稿を読んでいたからこそ、実際に音楽を耳にした時の感動はひとしおでした。

子どもたちは『魔女の宅急便』や『もののけ姫』など、好きな作品のモチーフに乗って、存分に「メリーゴランド」を満喫しているようでした。私自身も念願のヤックルに乗ることができたので、それはもう大満足でした。

「ハウルの城は、内部の構造が本当に映画そのままで、驚きました。部屋の中の質感が記憶通りで、ハウルの寝室の魔除けや間仕切りまでしっかり再現されているんです。さらに、部屋の劣化具合まで緻密に表現されていて、まるでハウルとソフィーが実際に生活していたかのような雰囲気を感じました。

「子ども向けの遊び場に長く滞在していました。」

子どもたちが「ジブリの大倉庫」にある「子どもの街」や「ネコバスルーム」といった、子どものための特別な空間で本当に楽し

そうにしている。今の時代、なかなか子どもから目を離せない状況が多いですが、「子どもの街」は、親の目を気にせず自由に遊んで探索できたり、「ネコバスルー

ム」のネコバスには子どもだけが乗って遊ぶことができたり。親目線でも子どもの自由な遊びを安心して見守れる、貴重な環境だと思います。



「ネコバスルーム」で遊ぶ子どもたち

あとは、ネコバスの様子がほんのわずかですが、くたびれているように感じただけです。これは決して悪いことではなく、むしろ味わいが深くなっているんです。ピカピカだった当初の状態から、たくさんの子もたちと遊んできた歴史が刻まれているようです。大人の手が入りすぎず、子どもたちとネコバスが一緒に歩んできた証しみたいで、素敵ですよ。

「親子で楽しいひとときを過ごすことができましたか？」

私はもちろん、子どもたちも終始楽しそうでした。長女(10歳)、次女(8歳)、長男(5歳)と、それぞれの年齢に応じた楽しみ方をしていたんです。同じ遊具でも、

違う観点で楽しんでいるのを見るのが親として新鮮でした。例えば、「もののけの里」の「乙事主(おことぬし)」の滑り台では、滑ることを主に楽しむ子もいれば、「乙事主」の背中から見える景



「乙事主」に興味津々な様子

色を楽しむ子もいて。そういった多様な楽しみ方ができるのが、ジブリパークの素晴らしいところだな、と。子どもが五感をフルに使って満喫できる一方で、大人は作品のシーンと照らし合わせたり、細部のこだわりを感じたりと、大人ならではの楽しみ方ができるのは、ジブリパークの魅力ではないでしょうか。

「これからジブリパークに行ってみようと考えている読者にメッセージを！」

まずは来園して、ありのままの雰囲気をしっかり感じてほしいです。そのあとは「ジブリパークができるまで。」を買ってもらう(笑)。それを見ながら「こんなところこういう仕掛けがあるのか」といった具合に、復習兼予



親子でジブリパークを満喫

習をしてもらうといいですね。そうして2回目に来園すると、また違う発見や体験ができると思います。今回は暑い時期にきましたが、次はちょっと寒い時期に来た時にどういった感覚になるのか、公園ならではの四季も肌で感じてみたいですね。

今回は作家朝井リョウさん。その記事はウェブサイトでご覧ください。



チケットは予約制